

集落ぐるみでの取組みによる被害軽減 一広島県三原市棕梨地区一

- 外部講師を招き集落全体で勉強会を開催。被害の原因や集落全体で取り組む重要性などを学習。
- モデルほ場で現場に応じて対策を実践し、取組を拡大。

棕梨地区の課題

○集落法人の取組みとして、10年前からワイヤーメッシュ柵を山際に設置したものの、管理が不十分のため外側の柵際まで茂みができ、2～3年後には被害防止効果のない柵に。

○シカ被害防止のため、既存柵の内側にかさ上げしたワイヤーメッシュ柵を追加設置したが、未設置のほ場は甚大な被害で殆ど収穫できない状況。



《イノシシに侵入された水田》 《シカに用にかさ上げた柵》

集落全体にあきらめ感が漂っていた。

そこで…

○県が依頼している外部講師を招き、集落全体で勉強会と集落点検を実施。

○被害発生原因、効果的な対策、集落全体で取り組む重要性等についてアドバイスを受ける。

主な対策

○モデルほ場（水田）の設置
ひそみ場となっている茂みの刈払い、電気柵による補強等を役割分担して手際よく作業。



《環境整備後の様子》 《電気柵による補強》 《作業の様子》

○女性の力で家庭菜園の獣害対策
家庭菜園のモデルほ場を設置し、小動物から守る対策としてワイヤーメッシュ柵、ネット、電気柵等を設置。栽培講習会も開催。



《対策をした家庭菜園》



《講習会の様子》

○モデルほ場以外への取組みの拡大
ほ場管理を行っている住民にも呼びかけ、女性も男性も体力に応じて作業分担し、モデルほ場以外の水田も被害を防止。

○耕作放棄地でのキャベツ等栽培
イノシシの被害により耕作放棄されたほ場を、環境整備、ワイヤーメッシュ柵等を設置。法人の所得向上に向けてキャベツ・ハトムギ栽培に取り組む。



《耕作を放棄したほ場》



《対策後の様子》

対策の効果

○営農意欲の回復
獣害から守る自信がついたため耕作放棄地を復旧し、キャベツ栽培に取り組んだり、レンコンやツクネイモ・ハトムギの生産拡大に結びついている。

○法人の経営改善
鳥獣被害対策の効果が上がったおかげで営農意欲が向上し、法人の水稻の収量が増加し、10aあたりの平均収穫量が547kg (H26) から586kg (H29)に増加した。

○取組の拡大
市が対策の効果を他の集落へ啓発していった結果、モデルほ場の取組が町内周辺地域へ拡大 (H28実績・12箇所)。

○普及啓発への貢献
優良事例として、県・市町・JA職員の研修や、集落法人連絡協議会の研修、県内外からの視察等に活用され、鳥獣被害対策の普及啓発に貢献。



《指導者育成の研修》



《県内外からの視察受入》

集落ぐるみでの取組みによる被害軽減 ー広島県三原市椋梨地区ー

きっかけ

- ・既設のワイヤーメッシュの効果が低下
- ・かさ上げた柵以外は甚大なシカ被害

Step1 (H27) 勉強会, 集落点検

- 外部講師を招いて学習会, 集落点検を開催
- 課題と対策を学ぶ

Step2 (H27～) モデルほ場の設置

- 被害が防げなかった2箇所のほ場をモデルほ場として設置
- 役割分担して手際よく作業

Step3 (H27～) 家庭菜園の対策

- 家庭菜園のモデルほ場を設置
- 栽培講習会も行って女性の関心を集め, 参加者を増やす工夫も

取組に当たっての秘訣

- 家庭菜園のモデル園設置による女性の参加の促進。
- 研修や視察の受け入れによる集落の意欲維持。
- 市町担当者の積極的な働きかけと, 地元との信頼関係の構築。

Step4 (H28～) 取組の拡大

- モデルほ場以外へも取組の拡大
- イノシシ被害による耕作放棄地の復元

Step5 営農意欲の回復等

- 耕作面積の増加
- 法人の経営改善

Step6 (H28～) 普及啓発への貢献

- 行政職員等の研修受入
- 県内外からの視察

将来に向けて

- 椋梨地域全体が被害ゼロになることをめざし, 法人に属さない個人ほ場の取組や耕作放棄地の解消に向けて, 被害防止対策の取り組みを継続して広げていく。
- 経営基盤の増強と所得の向上を図り, 若者の農業への参画により, 持続可能な農業を目指す。
- 現場で身につけた被害対策技術を日々の取り組みの中でさらに高め, 法人・地域の発展に寄与するとともに, 他地域の被害防止対策に積極的に協力し, ほ場を守れた喜びや収穫の喜びを共有していきたい。

取組を経て…